



第4回 全国環境連 全国大会

2006.9.14 [thu]

ホテルニューオータニ ザ・メイン (東京都千代田区紀尾井町4番1号)

主催 / 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

後援 / 環境省

担当 / 全国環境連中国地区協議会 (山口県環境整備事業協同組合)



第4回 全国環境連全国大会の開催について

本日、ここに第4回全国環境連全国大会を開催いたしましたところ、ご多忙な中にも関わりませず、環境省を始め国の皆様方、国会議員の皆様方、また、関係諸団体の皆様方のご臨席のもと、全国各地から大勢の仲間が一堂に会し、このように盛大に大会を開催できますことはこの上ない感動であり、ご同慶にたえません。ご参加いただきました皆様方、誠にありがとうございます御座います。

また、平素から全国環境連の活動に対し、積極的なご協力、お取組みをいただいていることに対し重ねて篤く御礼を申し上げます。

さて、平成18年上半期には、ワールドベースボールクラシックやワールドカップサッカー、テポドン2号など歓喜や怒り等いろいろありました。一方、社会経済の動向は、規制緩和措置の解除、ゼロ金利政策の解除がなされ、景気は持続的な拡大にあり、その景気拡張期間は、イザナギ景気をも凌ぎ、いよいよ成熟期に入ると言われています。また、経済・生活の面でも量的なものより、質的なものが問われる局面を迎えているとも言われております。

振り返りますと、私達業界が今日あるのは、これまでに幾多の辛酸をなめつつ計り知れない厳しい試練を乗り越えながら、我が国の生活環境の保全や公衆衛生の向上に大きく貢献された諸先輩方の御労苦の賜物と深甚なる感謝の意を表しますとともに、それらの業務を私達は誠実に継承し発展させ、安定した形で次世代へ引継ぐ責務があると考えます。

さて、私達業界に関わりの深い法律の一つ、廃棄物処理法は、これまでに大規模な改正が逐次行なわれ、また、最近では直面する課題に対応する形で、毎年と言っても良いほど改正につぐ改正が行われています。

一方、循環型社会形成推進基本法の制定により、従来の公衆衛生を基本とした対応から、循環型社会の形成という理念を取入れた政策展開がなされるなど、私達業界もこれら新たな政策や法令に適正・迅速に対応しなければなりません。

今般、策定された第3次環境基本計画の重点分野政策プログラムでは、中長期的な目標として、環境保全上健全な水循環がもたらす恩恵を最大限享受できる社会の構築を目指すことが明らかにされました。このことは、地方自治体に大きな財政負担が無く、小回りが効き、安くて性能優秀な浄化槽の整備促進への期待が、一層大きくなるものと考えます。

本年2月に施行された改正浄化槽法を踏まえて、今後とも浄化槽に期待された機能を十二分に発揮できるよう維持管理については最大限の努力が必要であります。

私達は平素から、誇りを持って業務に当たり、法令の遵守は当然ですが、地域社会への貢献や顧客の重視そして説明責任を果たすことの重要性を再認識する必要があります。勿論、私達は、常に使命感をもち高度な技術で誠実な業務を遂行するとともに、たゆまぬ技術の研鑽に励み、今大会のメインテーマである循環社会形成のための技術革新・イノベーションに尽力することは、正に現代に生きる我達に課せられた行動目標であり、業界各位の意識改革のもと、社会的にも評価を得られるような事業の展開が必要であります。

我が業界の課題については、下水道整備に係る業務縮減対策、不法・不当な新規許可対策等々枚挙に暇はありませんが、全国環境連の会員ならびに傘下職員は、国や地方自治体のご教示を請いながら関係団体等との緊密な連携のもとに一致団結・手を携えて、相互扶助の精神を持って、改革改変の厳しいこの難局を乗り切っていこうではありませんか。

本日の大会が皆様方のご協力により、有意義で実り多いものとなりますようご期待をし、また、全国環境連傘下の皆様方のご多幸をお祈りし挨拶といたします。

平成18年9月14日

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 鳥越澄夫

山口県環境整備事業協同組合

理事長 武市美登

祝 辞



環境整備議員連盟会長
自由民主党筆頭副幹事長

衆議院議員 宮路和明

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第4回全国大会のご盛會を心よりお慶び申し上げます。全環連に結集された皆様方が、日頃より国民の生活環境の整備、向上にご尽力されておられることに対し、深く敬意を表するものであります。

私は、昨年10月、環境整備議員連盟会長に選任されました。

今、ここに改めて責任の重さを身にしみて感じているところであります。

会員の皆様の力強いご協力とご指導を切にお願い致します。

さて、当議員連盟は、平成15年5月、責任政党たる自民党国会議員の同志が相計り、廃棄物行政に関する法律を一般廃棄物の安定的かつ適正な処理と合理的なりサイクル制度を実現するように整備し、地球環境の保全に寄与する諸施策の推進を図ることを目的として設立いたしました。

わが国において、現在、廃棄物の排出量は高い水準にあり、不法投棄の増大等廃棄物を巡る諸問題は山積しております。

これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から循環型社会の実現に向けて一步一步前進していかなければなりません。

また、循環型の廃棄物処理システムをつくりあげるためには、地域においてこれまでのごみ処理を資源循環、エネルギー回収、最終処分減量化へと方向転換を図る必要があります。このため循環型社会形成推進交付金制度等を活用して地域で知恵と勇気を出しあって廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用の新しいモデルをつくること、すなわちイノベーションが重要となって参ります。

そして、このようにして生みだされた新しいモデルを日本モデルとしてアジアに世界に提案していくことも重要であります。

こうした時に当たり、本大会が循環型社会のイノベーションをテーマに開催されますことはまことに時宜を得たものであり、大きな成果を期待するものであります。

つぎに、浄化槽についてであります。浄化槽は、各家庭で生活排水の処理を行い、清浄な水をその場で河川に戻すものであり、その水循環機能と経済効率性は大変高く評価されております。

このため、昨年、浄化槽法の改正が行われ、水質保全のための施設として明確に位置づけられました。

水質の保全を適切に行うためには、日頃からの清掃、保守点検など維持管理業務の重要性は益々高まってきております。

したがって、全国環境連の会員の皆様方におかれては、これまでに蓄積された浄化槽維持管理の技術にさらに磨きをかけられ、地域住民の信頼を確保し、浄化槽整備の拡大とあわせて事業の発展を図られますことを期待いたしております。

最後に、今全国大会を機に会員の皆様が一致結束され貴連合会が益々のご発展あらんことを祈念して、お祝いのご挨拶と致します。

祝 辞



環境省大臣官房

廃棄物・リサイクル対策部

部長 由田 秀人

全国環境連第4回全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

環境連の皆様方が、一般廃棄物の処理、浄化槽の清掃など、日頃より生活環境の保全のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表する次第であります。また、本大会は、「循環型社会のイノベーション（技術革新）」をテーマとして知識や技術の向上を図るものであり、誠に意義深いものと考えます。

さて、21世紀は環境の世紀と言われています。とりわけ循環型社会づくりは、脱温暖化社会づくりとならび、環境政策の最重要課題です。循環型社会は大きなテーマですが、一人一人の国民の皆様にとっては、「もったいない」という心で物を大切することに行きつくのではないのでしょうか。小池環境大臣は、「もったいないふろしき」をデザインし、発信しています。我が国の文化から生まれたふろしきを使って、レジ袋の削減などを国民の皆様にもアピールしています。

先の国会では容器包装リサイクル法を改正しました。今回の改正は市町村、事業者、消費者の連携の強化で、3Rをより効果的、効率的に進めていこうというものです。

浄化槽法も昨年改正をさせていただきました。これにより、公共用水域の水質の保全という目的が法律に位置づけられました。水質の保全を目的とする浄化槽については、普段からの維持管理がその性能を左右します。これからは、清掃、保守点検の重要性は益々高まります。それらを担う、浄化槽清掃業、浄化槽保守点検業は、住民との接点を強め、住民の信頼を得て技術力を高め、浄化槽整備の拡大と一体となって成長していただくことが期待されます。

また、昨年度から浄化槽を含めた廃棄物処理施設の整備を支援するための「循環型社会形成推進交付金」、浄化槽と下水道等の整備を効率的に行うための「汚水処理施設整備交付金」が創設されました。さらに本年度から単独処理浄化槽の撤去費用に対する助成も創設され、浄化槽の整備に対する支援が強化されました。これらによって、浄化槽の整備は一層進められると期待されます。

このような中で、浄化槽を健全な水循環をまもり地域のバイオマスリサイクルにも貢献するものとして、5月から、中央環境審議会の浄化槽専門委員会での審議が開始されており、年内にも浄化槽ビジョンとでもいうようなものを取りまとめていただくこととしています。

環境連の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力を御願いとするとともに、環境連の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



財団法人 日本環境整備教育センター

理事長 入山文郎

本日ここに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第4回全国大会が、「循環型社会のイノベーション（技術革新）」をテーマにこのように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴されました方々に心よりお喜び申し上げます。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業に常日頃より格別なるご協力、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

浄化槽は生活排水を処理する投資効率の高い恒久施設として、また、地域における有効な循環型施設として水環境の保全に貢献し、社会的な評価を高めつつありますが、さらに生活排水の柱として前進させるためには、市町村による生活排水処理計画と汚泥処理計画の策定が重要であることはいうまでもありません。

しかしながら、多くの国民にとっては単独処理浄化槽のイメージが強く残っていると同時に、浄化槽に対する不安感など、なお、完全に払拭しえていないという現実も存在しており、浄化槽関係者が官民一丸となって社会的な啓発活動の強化と信頼性を高める努力が必要であると痛感するしだいです。

特に、地方公共団体や業界団体の連携強化と責任体制の明確化、施工・維持管理システムの確立並びに法定検査のさらなる強化・充実、さらには、単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換などの浄化槽に係る諸課題の解決が、信頼性の確保のためにも、公共用水域の汚濁防止の観点からも急務であると考えます。

とりわけ、適正な汚泥処理が行われてはじめて生活排水処理が完結したと言える観点から、眼前に迫った海洋投棄の禁止に伴う汚泥処理について、その減量化、有効利用に向けた汚泥処理体系の再構築が強く求められております。

当教育センターは微力ながら浄化槽の推進、向上に努めて参りましたが、現在の浄化槽にかかるさまざまな課題を十分認識し、今後とも浄化槽事業の発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会の今後益々のご発展、ご活躍を心から期待申し上げますとともにご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念致しまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

第4回全国大会開催を祝して



社団法人 全国浄化槽団体連合会

会長 松下鉄男

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第4回全国大会開催を心からお祝い申し上げます。
貴連合会会員各位はし尿、ごみの収集とその適正な処理に尽力され、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きな貢献を果たしてこられました。

市町村における一般廃棄物処理事業は、循環型社会づくりの土台となる社会システムとして、廃棄物から資源とエネルギーをできる限り回収していくシステムに転換していく必要があり、また、今後は脱温暖化社会構築に貢献する資源循環・エネルギー利用システムに変革していくことが重要だと言われております。このたび貴連合会が「循環型社会のイノベーション（技術革新）」をテーマに第4回全国大会を開催され、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、過去の経験・技術を基に、創造力を活かし、先進的な研究開発に努め市町村の一般処理システムの3R化に努めるとの自らの決意を内外に表明され、3Rの推進活動を精力的に展開されることは誠に時宜を得たものと深い敬意を表すものであります。

近年、水環境に対する国民の関心はますます高まっております。この美しい国土、水環境を守り、将来の世代に引き継いでいくことは、現代人に課せられた大きな課題であります。

この二月一日、浄化槽法の一部を改正する法律が施行されましたが、法改正では、浄化槽法の目的において「公共用水域等の水質の保全等の観点から浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理を図ること」が明示され、浄化槽の維持管理等に関する監督の強化、特に法定検査では罰則の適用を含む検査の徹底がうたわれました。

全浄連としましては、法改正の趣旨に応えるよう適正な保守点検・清掃、法定検査の徹底に全力を上げるとともに本年度から助成対象となった単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換事業に努め、PFI手法を活用した浄化槽市町村整備推進事業への取り組みも推進することとしております。

我々浄化槽業界としましては浄化槽の信頼を高めるべく、上記諸事業に関連団体相連携して取り組んでいく決意でおりますので、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

第4回 全国環境連全国大会

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、今日まで、廃棄物の適正処理を通じて、わが国の良好な水環境の確保に貢献してきたところである。

しかし一方では、業界を取り巻く経営環境は、下水道の整備普及により年々厳しい状況に追い込まれている。そのため「合特法」の目的に沿った転換業務（補償）の獲得が急務となっている。

我々がこの難局を乗り切り、将来の展望を求めるためには、自らの力で業界の経営基盤の強化と技術の進歩に取り組まなければならない。「温故知新」すべからく過去の経験・技術に習い、創造力を活かし先進的な研究開発に努め、技術革新に弾みをつけ、業界の未来を切り拓くことが必要である。

本大会は「循環型社会のイノベーション（技術革新）」をテーマに、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、国・地方及び関係業界が手を携えて推進する循環型社会づくりを目指し実現するため、3R（リデュース・リユース・リサイクル）のための活動を精力的に実行することを誓い、我々の決意を表明するとともに、全国の一般廃棄物処理業者の安定的発展を成就させることを目的とするものである。

● 主 催 ●

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

● 後 援 ●

環 境 省

● 担 当 ●

全国環境連中国地区協議会
山口県環境整備事業協同組合

講演

- 月 日／2006年9月14日(木)
- 受 付／12：30～13：30
- 講 演／13：30～14：20
- 会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン (鶴の間東)

演 題

「循環型社会への展望」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
廃棄物対策課長 関 庄一郎

本大会

■月 日／2006年9月14日(木)

■本会議／14：30～15：00

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン (鶴の間東)

次 第

- (1) 開 会 の 辞
- (2) 政府に対する要望決議発表
- (3) 大会スローガン発表
- (4) 大 会 宣 言 発 表
- (5) 閉 会 の 辞

政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は、「合特法」に基づいて転換業務（補償）獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

記

- 1) 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務（補償）の獲得など市町村において適切な対策が講じられますよう指導されたいこと。
- 2) 浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3) 政府は、本年3月「第3期科学技術基本計画（平成18～22年度）」の閣議決定を行い、重点投資をする研究課題を取り決めました。
そこで、技術革新の可能性のある浄化槽の分野についても、浄化槽の最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション（技術革新）創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4) 汚水処理施設の整備（下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再処理センター）については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、経済的、効率的に整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5) ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。

第4回全国環境連 全国大会スローガン

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務（補償）獲得
1. 不法、不当な新規許可絶対阻止
1. 優れた水循環機能を持つ浄化槽の適正な維持管理と経済的かつ効率的な整備促進
1. イノベーション（技術革新）による循環型の社会づくりの実現に向けて3R活動の一層の推進
1. ディスポーザー排水処理システムの確立と制度化
1. 環境情報の収集と提供の充実を図り、会員による情報・知識の共有化
1. 組織の拡大と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の拡充

大会宣言

私達、一般廃棄物処理業者は市町村の自治事務の代行者として、これまで幾多の辛酸をなめつつ計り知れない厳しい試練を乗り越え、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きく貢献してきたところである。近年、下水道の整備普及による業界の経営は、年々圧迫の度を増し厳しい状況に追い込まれている。したがって、業務の安定を保持し、廃棄物の適正処理に資することを目的として、「合特法」に基づく転換業務（補償）獲得を実現するため、合理化事業計画の策定とその実行を強く市町村に求めていくものである。

私達、一般廃棄物処理業者は、かつてないこの未曾有の難局を克服し、さらなる飛躍を遂げていくため、その独創性を発揮しつつ事業に取り組み、自らの力で経営革新に努める一方、幅広い分野の知恵と技術を結集し、今後も地域住民の快適な生活環境の確保に努めるものである。

第4回全国大会のテーマである「循環型社会のイノベーション（技術革新）」を行動目標として、業界の意識改革のもと社会的評価を得る事業の展開に取り組み、循環型社会の形成を目指すものである。

さらに私達は、組織拡大を図りながら強固な団結と協調の下、新しい環境を創造し、全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上宣言する。

平成18年9月14日

第 4 回
全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全 国 大 会

大会式典

■月 日／2006年9月14日(木)

■受 付／14：30～15：30

■式 典／15：30～16：45

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン (鶴の間東)

次 第

- (1) 開 会 の 辞
- (2) 物 故 者 に 対 す る 黙 祷
- (3) 大 会 式 辞
- (4) 優 良 役 員 ・ 従 業 員 表 彰
- (5) 受 賞 者 代 表 謝 辞
- (6) 来 賓 祝 辞
- (7) 来 賓 紹 介
- (8) 祝 電 披 露
- (9) 閉 会 の 辞

懇親会

■月 日／2006年 9月14日(木)

■受 付／16：00～17：00

■懇親会／17：00～19：00

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン (鶴の間西)

次 第

- (1) 開 会 の 辞
- (2) 代 表 挨 拶
- (3) 来 賓 祝 辞
- (4) 来 賓 紹 介
- (5) 乾 杯
- (6) 一 本 締 め
- (7) 閉 会 の 辞